

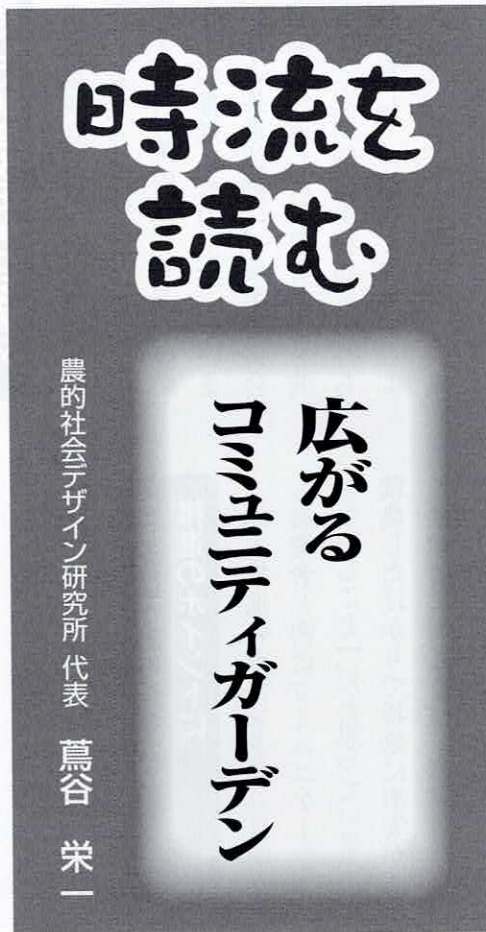
日野市のせせらぎ農園

この頃、コミュニティガーデンなる言葉を耳にすることが増えてきた。アメリカのニューヨークでビルを建て替えるにあたり、ビルを壊した後、しばらく空き地になっっているところを市民が一時的に借りて花を植えたのがそもそもであるとの紹介を読んだ記憶がある。これが欧米で広がり、日本でもコミュニティガーデンを標榜する農園が少しずつ現れ始めた。今、コミュニティガーデンは「身近な空き地や緑地を住民の手で美しい庭（農園）に変え、安全で緑豊かな美しいまちを創造していく協働のまちづくり」を指すようになってきているようだ。

東京都日野市に「ひの・まちの生ごみを考える会」が運営している農園は「コミュニティガーデンせせらぎ農園」と称している。近くを浅川が流れていることから、周りに用水路が張り巡らされ、あちこちからせせらぎの音が聞こえてくる。1200坪ほどの農地を

借り受け、生ごみに竹パウダー、落ち葉、竹炭を混ぜてたい肥化している。そして週2回、20人前後の老若男女が農作業を行っている。農作業のためだけでなく、話し相手や情報等を求めて集まり、また保育園や小学校をはじめ様々な団

すべての小・中学校の給食における地元野菜の利用推進や援農市民養成講座「農の学校」などの先進的な取り組みを展開していることで知られている。そうした日野市でも担い手の減少、市民が農的活動を行う場所の安定的確保の困難



体が農業体験等に訪れる。そして収穫した野菜は労働の対価としてその場で分け合って持って帰る。

農のある暮らしづくり協議会

その日野市は、1998年に日野市農業基本条例を制定し、市内

化等が進行している。2018年に市のまちづくり条例にある市民主体のまちづくりの中のテーマ型まちづくりを目的とする「農のある暮らしづくり協議会」が発足し、21年4月には「農のある暮らしづくり計画」を決定している。ここ

では農地は基本的に農家が営農し、市民は公園・緑地や低未利用地をフィールドにして農的な活動を展開していくとの整理をベースにする。その中で誰もが気軽に立ち寄れる範囲ということで、中学校区に1か所程度、農の活動拠点としてコミュニティガーデンを整備していくことが盛り込まれている。

体験農園等の次のステップ

このためせせらぎ農園の佐藤美千代代表等によって、活動団体や行政をコーディネートする中間支援組織として一般社団法人TUKURU（代表・丸木英明）も設けられた。既に新拠点の第1号となる「東平山ハチドリ農園」が立ち上がっており、現在、第2号を目指して「多摩平中央公園地区コミュニティガーデン」づくりがすすめられている。

市民農園、体験農園は全国に広がったが、さらに市民の農業参画の度合いを高め、農のある暮らしづくりを目指すコミュニティガーデンが増えていくことになりそうだ。